

設置構想中の
大学に聞く!

新設広報のこれから?

成蹊大学
国際共創学部(仮称)

入学員	150名
設置年度	2026年
学位の分野	文学関係 理学関係

キャンパス/東京都武蔵野市
学生数(学部)/7634人
学部/経済、経営、理工、文、法

サイトのキービジュアル

高校生の疑問別に
学びを紹介する工夫



「文理複眼」の学びの特徴を
直感的に伝える工夫

【国際共創学部特設サイトの構成】

～ターゲットの共感、学びの特徴から
卒業後のキャリアまで豊富なコンテンツ

共感	▶キービジュアル ▶高校生のふとした疑問⇒オススメの学び ▶ショート動画
学び	▶4つの学びの特色⇒詳細 ▶学べる分野 ▶養うスキル ▶学部長インタビュー ▶国際教育と留学
キャリア	▶卒業後の進路 ▶目指せる職業 ▶目指せる資格
各専攻別 情報	▶専攻の特徴 ▶学びのテーマ例 ▶4年間のカリキュラム ▶具体的な授業例 ▶目指す将来像(マトリクス表で提示) ▶目指せる職業 ▶就職サポート ▶目指せる資格

*入学定員等は現時点での予定であり、今後変更される場合があります。

文理複眼で課題解決を
めざす学部を計画

1949年に政治経済学部1学部からスタートした成蹊大学。今では、理工学部含む5学部体制の総合大学だ。現在、国際共創学部(仮称)の2026年開設をめざし、準備を進めている。成蹊学園は創立当初から気象観測所を設けて気象データを取り続けるなど、環境教育に力を入れてきた。この持続可能な開発のための教育をさらに強化し、社会課題の理解・解決を担う人材を育成するのが新学部設置の狙いだ。

同学部には「国際日本学専攻」「環境サステナビリティ学専攻」が設けられ、学生は理論と実践の両面から学べる。これらの専攻を置くのは、現代社会の諸課題は文系と理系を横断した「文理複眼」で考えなければ、解決策は見いだせないという考えからだ。

「自分の興味や得意分野を生かしながら、文理双方の視点を持ち、

共創しながら課題解決スキルを身に付ける」という新しいタイプの文理複眼型教育は、学部づくりに加え、その広報も大きな挑戦だ。そこで、「従来のやり方にとらわれない新設広報に挑んだ」(企画室の賀屋周防広報グループ長)。

ワーキンググループの設置、
早期、ターゲットの明確化

まず、重視したのは早期からの

情報発信だ。多くの大学がひしめく首都圏で、高校生の志望大候補となるためには、他大学の広報活動が本格化する前の高2・3月までに認知してもらうことが鍵だからだ。2024年2月には、いち早く*ティザーサイトをオープン。11月からは各専攻の学びの特徴内容、キャリアについてビジュアルを用いて紹介し始める。3月の高校向け説明会に向けてサイトに誘引するチラシも速やかに用意。構想中の段階での広報は至難の業だが、その時点で出せる情報は最大限、発信していると言う。

早期でまめな広報展開が可能になったのは、設置に向けた組織体制の存在が大きい。従来は、学長室が各部署や教員とやり取りしつつ、各自が担当業務を進めていた。今回は、関連する教職員による設

置委員会をつくり、教職協働で連携して進める体制が整えられた。

委員会では、進行状況や現状の課題を皆で共有し、次のアクションを検討する。具体的な施策はテーマ別に設置したワーキンググループ(WG)が担い、広報は広報のWGで進める。その結果、広報スケジュールに合わせて新学部の中身の意思決定のスピードが上がり、早期から情報発信ができるようになった。

併せて広報ターゲットを明確にした。高校向けの説明会を担うアドミッションセンター事務室宮坂剛課長は、高校の反応に手応えを感じていると話す。「メインターゲットは、探究学習などをきっかけに社会課題に興味を持ち、何かアクションを起こしたいと思っっている高校生。説明会で高校側に話を聞くと、そうした生徒がわれわれの想定以上に多い感触を得た」。

今後は、サイトのコンテンツを拡充予定だ。「新学部の学びに対して興味を持つ高校生は多いはず。各専攻の特徴をさらに打ち出し、何ができるのかを紹介する動画やQ&Aのコンテンツをつくりたい。高校生の期待に応えられる教育内容を準備していることを、しっかりと、丁寧に伝えていく」(賀屋氏)。

* 商品・サービスのリリース前に、ユーザーにアプローチするためのWebサイト